

平成 30 年度第 3 回小諸市総合計画審議会 議事概要

平成 31 年 2 月 5 日（火）開催

開催日時 平成 31 年 2 月 5 日（木）午後 6 時 00 分から

開催場所 小諸市役所 第 2 会議室

出席委員 岩本秀幸、片桐喜美江、黒澤正幸、佐藤重、中屋和也、花岡隆、松井元司、村松
奈央美、西村廣一、山下千鶴子
以上 10 名

（欠席：荻原勝己、佐藤英人、中村健、以上 3 名）

1. 開会（進行：企画課長）

2. あいさつ

（市長）

本日は、第5次基本構想の柱の1つ「地域別まちづくり方針」について、今後どのような観点でどのように進めていったら良いかについてご意見を頂戴したい。第10次基本計画は平成31年度が計画期間最終年で、基本構想12年の前期4年が終了。行政計画の基本計画は、毎年度審議会で方向性、評価の中身について議論いただいているが、「地域別まちづくり方針」については、各地域にお任せとなっているが、今後、少子高齢化等で税収減少が見込まれ、市民の多様なニーズ全てに行政が応えられない中、市民協働による各地域の課題解決に向けた「まちづくり」の推進のためにも、審議会委員の皆様にもお力添えを賜り、取り組みを展開していく必要がある。本日の内容は、次年度等の地域別まちづくり方針の進捗管理において、参考とさせていただきたい。よろしく願い申し上げる。

（会長）

本年度最後の予定であるので、持ち越し事項のないよう協力をお願いする。しなの鉄道で軽井沢から小諸まで鉄道で来る際、大勢の外国人客が軽井沢から乗車していたが、小諸に来る前までに全員降りてしまった。これを小諸まで来るように考えることが必要である。複合交流施設、脇本陣等の整備事業が進んでいるが、更にまちが良くなるようこれからも審議会として考えていきたい。

3. 報告事項

（会長が議長となり、議事を進行）

（1）課題施策等の進捗状況について

（会長）

前回審議会で見聞、質問が集中した「重要伝統的建造物群保存地区」「太陽光発電設備の設置」について、その後の進捗状況について、担当からの報告をお願いしたい。

（資料に基づき、「太陽光発電設備の設置」について事務局より説明）

（会長）

ご質問があれば遠慮なくお願いしたい。委員いかがか

（委員）

非常にスピーディに対応してもらいたい。今後も、対応をお願いしたい。

（事務局）

区長会等への細やかな説明等も実施してまいりたい。

（会長）

他にいかがか。なければ別件になるが、最近の住宅用太陽光設備の火災について伺いたい。

(事務局)

いままで注目していなかった部分であり、研究してまいりたい。

(会長)

事務局から、「重要伝統的建造物群保存地区」の報告をお願いしたい。

(資料に基づき、「重要伝統的建造物群保存地区」について事務局より説明)

(会長)

ご質問があればお願いしたい。委員いかがか。

(委員)

前向きに検討いただきたい。

(会長)

他によろしいか。なければ、報告事項(2)その他について、事務局からお願いしたい。

(資料に基づき、「戦略的で効率的な行政経営の推進に関する実行計画」について事務局より説明)

(会長)

P5 行政経営方針の基本方針(1)についてどのように進めていくかということについて、前向きな方針を立てたということによろしいか。

(事務局)

そのとおりである。今までも進めていたことだが、住民サービスを今後も維持し、さらに向上させる意味で、実効性を持たせるために策定した。既に実施済みの事業もある。

(会長)

ご質問等あればお願いしたい。委員いかがか。

(委員)

市ですべて賄えるものではないので、アウトソーシングを進めるのはよいと思う。

(委員)

成果があると見込んで実施していると思うが、コスト削減等になるか。

(市長)

コスト面もあるが、図書館の例ではサービス低下とならないよう実施したもの、上水道の例では、技術の継承と今後の経営等を見通し、さらに事業精通した専門性ある職員を育成し、水道事業を継続していくため実施したものなどがある。

(会長)

アウトソーシングした事業も今後行政の方へ戻ってくる可能性もある。市民のためになにが一番良いかということ柔軟に考えていってほしい。公共施設の配置、運営、維持管理の適正化について、平成31年度末を目途に全ての公共施設で個別実施計画を策定するとあるが、その見地に立って進めていただきたいと強く思う。個人的なことで恐縮ですが、自分の住所地で公共施設の管理計画が発表されたが、多くの施設が統廃合とされていた。採算面等は考えなければならな

いが、一方ではいかにまちづくりの中で活かしていくのか等を考え進めていくことが大切と思う。他にはいかがか。なければ協議事項へまいりたい。事務局から説明をお願いします。

4. 協議事項

(1) 第5次基本構想「めざす地域の姿（地域別まちづくり方針）」について

（資料に基づき「総合計画概略について」、「地域別まちづくり方針について」、「小諸市の区（自治会）について」、「地区懇談会の活動について」を事務局から説明）

（会長）

第5次基本構想について、めざす地域の姿が入った。これが特徴的な計画である。なんでもよいので質問をお願いしたい。委員いかがか。

（委員）

計画策定する際の地域のお宝さがしに、時々参加していた。どうまとまっていくのかと、多くの参加者同士では話しをし、疑問をもっていたが、地区のおすすめのポイント等まとまっており、無駄な事ではなかったと思った。しかし、多くの市民が、この計画を実行しようとしているのか実感がない。この情報は広く発信されているのか。

（事務局）

目指す地域のすがたを進める主体は地域で、各区長がリーダーで進めるが、任期1年位で交代となってしまうため、地域職員連絡会として地域に入っている市の職員が、その活動を進めていかなければいけない。そこを頑張らなければいけない。

（会長）

本日の会議は、結論をだす目的ではなく、自由に意見交換したい。意見等いかがか。

（委員）

区はどのような組織か。また、権限はどうなっているか。

（事務局）

自治組織である区は、市と対等関係で行政的権限はない。

（委員）

各区長からの情報はどのくらいの市民に伝達され、めざす地域のすがたの計画について認識されるか。

（事務局）

取り組みに対する地域差があり、地区懇談会に参加する役員も地区によって違うなどが実情である。

（会長）

地域差があることは、やむを得ない部分であるが、そこを一律にしていく方向で考えているのか。

（事務局）

地域差については、一番はじめに実施したお宝探しから、自治に市が介入するのはおかしいと

いうところもあったが、めざす地域のすがたは全市で策定した。行政で定めたということではなく、地域を含めて作成した。時間はかかると思うが、ここへ向け地域が一体となり、まちづくりを進め、市は側面的支援をし、市内地域が同じ温度差になるよう進めていくことと考えている。

(会長)

すばらしいまちづくりをしている地域があれば、他の地域へも相乗効果の影響があると思う。委員いかがか。

(委員)

小諸市が賑やかになるには、人が増え、自分たちを支えてくれる子どもが増えてもらいたい。空き家が増え、子どもが減るなかで、現在はお神輿もできない状態。

(市長)

議会で視察した明石市については、子どもに特化し人を集めている。かける費用は、人が集まることによる経済効果で精算されるという考え方にに基づき行っている。幼児教育の無償化が10月から開始予定であり、全国的に大きな差はなくなってくる。小諸市は、給食がおいしいところ、自然環境がよいところなど、都会に向け情報発信すること、外への情報発信力に焦点をあてていきたい。教育の面では、魅力ある高校等があれば人が集まるということもあるのではないか。

(会長)

委員いかがか。

(委員)

新校について検討しているが、地域に出て、地域の課題を考える体験的な学習が必要ではないかと思う。めざす地域のすがたや地域のお宝について、大人はわかっているが、子どもはどうか。お宝より、地域での困り感を大人と高校生が交じり、一緒に解決していくという姿がこれからの理想の姿ではないかと考える。今後検討していく中で、学校という現場だけでは限界は相当あり、地域の人材としてのお宝を、市にもバックアップしてもらい、まちを考えていくことができれば理想的である。

(会長)

子どもの目線は大人と違う。高校生、中学生、小学生がどう考えるのかについても考えていく必要がある。地区懇談会の効果、悩みはどうか。また、地区により温度差があるということであったがどうか。

(事務局)

地区での温度差については、区の規模が大きい区が多い地区2000人規模のところでは、区の中で活動しているので、地区としての活動はあまり盛んではないと捉える。100人を下回るような規模が小さい区が多いところでは、地区活動が盛んであると感じる。何度も区長、役員になる場合もある。地区活動の成果は3点あると思う。人とのつながりが増えたこと、地元資源の再認識、新たな体験・経験ができたことである。ある地域において、地区合同で行うことにより、夏祭りの子ども神輿ができたことがある。調査によると、小諸市の子どもたちが地域の行事に参加する割合は、全国と比較してかなり高い。地域の皆さんのころづかいの成果ではないか。

(会長)

それが定着していくと、「帰ってきたいまち小諸」につながる。委員いかがか。

(委員)

区長、区の役員は日々苦勞の連続である。市内すべての区に市の職員が配置され、行事等にも協力をいただいております。区長会と市の両方で、区民のために行っているが、区長、役員共なり手がなく、また関わりたい人と、関わりたくない人とがはっきりしており、両方をまとめるのは難しい。高齢化も進み、現実的には、出ている問題以外にも多くの問題がある。人口の減少が進んだ 20 年、30 年後には、現在の 68 区が 10 地区になる可能性もある。そうなれば、統合とならざるを得なくなる。

(会長)

人口減少もあるが区（自治会）等への加入率が減少している。価値観の多様化等もあり、結論が出ない難しい問題でもある。委員いかがか。

(副会長)

商店街への加入率は半分位で減少している。加入している方が負担で、加入しない方が楽だということになれば、各地区のコミュニティにおいても同様、加入率はますます減少する。長野市では条例をつくり、お店を出すならば加入することが制度的に決まっているところもあるようである。今後、地域の自治のなかで話し合いはしていかないといけないと感じている。

(会長)

ご意見をいろいろ伺ってきたが、第 5 次基本構想「めざす地域の姿」について、なにかご意見はあるか。

(委員)

審議会協議であれば、具体的な事項があればわかりやすいが、この内容では何の目的なのかがよくわからない。

(会長)

先程、事務局の説明があったが、本日は現在考えている意見交換でお願いしたい。

(委員)

市民 4 万人分の意見になる。自治権限は多種多様であり、すべては当然に出来ないと思う。では 4 年間の計画期間に何をしていくのが課題であり、その活動も全住民参加ではないのは当然であると思うが、審議会で何かできることはないだろうか。

(会長)

委員のおっしゃるとおりである。

(委員)

アンケートを取っているのはよい。「住みたい、行きたい、帰ってきたいまち小諸」の次、みんなにやさしいとあるが、具体的に何が小諸市としてやさしいか、どこに重点があるのか、答えられるようにしたい。先程、人的環境ということがあったが、ひとりひとりがあいさつ、声がけすることなどもひとつと思う。また、子育て世代を取込むのは取り合いで、無理があるかもしれないと感じている。高齢者に視点をむけて、元気な高齢者とお互いに地区で人との交流もできるということが、今回はそこもポイントになるのではないかと思う。

(会長)

本日は意見交換であったが、いろいろと意見が出た。事務局で検討をお願いしたい。では、本年度の審議会はこれで閉じたい。

5. 閉会

午後 8 時 5 分終了

(議事録署名)

小諸市総合計画審議会 会長 _____